

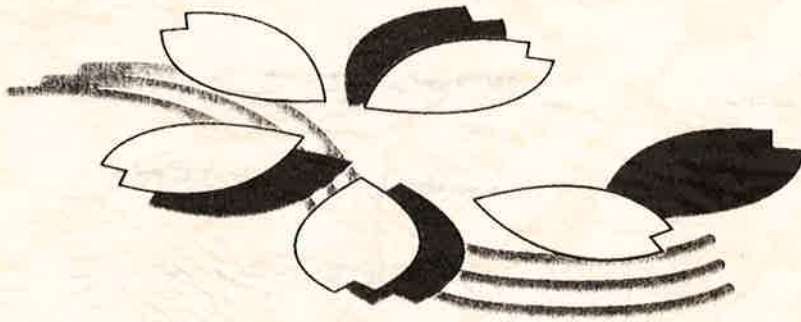


主催：宮崎県北郷町

第11回さくらサミット in 北郷

開催日 1999年4月4日(日)・5日(月)

会場 ホテル北郷フェニックス



目次

さくらサミット憲章	2
ごあいさつ	3
タイムスケジュール／講師プロフィール	4
参加自治体一覧／参加自治体地図	5
参加自治体紹介	6
■北海道静内町／秋田県角館町	6
■茨城県日立市／群馬県鬼石町	7
■埼玉県幸手市／東京都北区	8
■新潟県上越市／新潟県加治川村	9
■長野県高遠町／岐阜県根尾村	10
■奈良県吉野町／島根県木次町	11
■長崎県大村市／熊本県水上村	12
■宮崎県北郷町	13

さくらサミット憲章(平成元年9月22日制定)

SUCCESS / 成功

第1条: 今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

APPROACH / 接近

第2条: 「21世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることができるように努めます。

KEYWORD / 言葉

第3条: まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見いだします。

UNITY / 調和

第4条: 文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

RELATION / 縁

第5条: 「桜」によって結ばれた縁を大切に、互い友好を深め、21世紀に向かって前進していきます。

AGREEMENT / 合意

第6条: 共通の目標に向け、ふれあいと連帯を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

ごあいさつ

緑と清流と温泉のまち北郷町へようこそ、心から歓迎します。

花と緑に包まれた最も美しい時期の宮崎県において、全県をあげて開催されております宮崎都市緑化フェア(グリーン博みやざき'99)の期間中に、北郷町において第11回全国さくらサミットを開催させていただくことは、誠に意義深く関係各位に厚くお礼を申し上げる次第であります。

また、本日は、サミット参加自治体の皆様をはじめ関係団体の皆様には、新年度早々の大変お忙しい中、しかも遠路よりのご参加をいただきまして、心から厚くお礼を申し上げます。

今回のさくらサミットのテーマは「人にやさしく、桜にやさしい環境づくり」であります。さくらはふるさとの情景を思い浮かばせると同時に日本の文化や精神の創造に大きなかわりをもってまいりました。今、地球規模の環境問題が議論される中、ふるさとの快適な環境をどう維持し、次代へと引き継ぐのかといった課題に真剣に取り組むことが必要であります。

本日は、俳優で、特に自らも大自然に飛び込み、環境問題にも詳しい柳生博先生を講師にお招きし、基調講演をお願いいたしております。また、各参加自治体の皆様の先進的な緑化や環境対策につきましても、情報の提供をいただきながら、意見の交換をさせていただくこととしております。

最後になりましたが、今回のサミット開催にあたり、参加自治体の皆様はもとより、コーディネーターをお願いいたしました篠田伸夫先生をはじめ、諸準備をいただきました関係各位に厚くお礼をもうあげますとともに、本日ご参加いただきました方々のご健勝とご活躍をお祈りいたしまして、ごあいさついたします。

北郷町長

植野章一

タイムスケジュール／講師プロフィール

4月4日(日)

14:00 開会(サミット1部)

- ・ 開催地あいさつ
- ・ 来賓あいさつ
- ・ 来賓紹介
- ・ 第3回さくらサミット大賞・押花絵コンクール表彰(7名)

14:20 基調講演

講師:柳生 博

演題:森と暮らす、森に学ぶ

15:30 サミット討議

参加自治体:15団体

コーディネーター:篠田伸夫

テーマ「人にやさしく

桜にやさしい

環境づくり」

17:15 共同宣言・次期開催地発表

17:20 閉会

4月5日(月)

9:30 開会(サミット2部)

参加自治体:15団体

議題:さくらサミットの今後の
運営と在り方

11:00 閉会

11:15 記念植樹

基調講演講師

■柳生 博(やぎゅう・ひろし)

俳優。茨城県生まれ。東京商船大学中退後、俳優座養成所9期生となり、今井正監督の映画「あれが港の灯だ」でデビュー。その後 NHK「いちばん星」で一躍脚光を浴びる。現在 NHK「生きもの地球紀行」にレギュラー出演。私生活では、山梨県八ヶ岳南麓にアトリエを建て、人間と自然が仲良くなれる風景づくりに取り組んでいる。



サミットコーディネーター

■篠田伸夫(しのだ・のぶお)

(財)救急振興財団副理事長。京都大学法学部卒業。自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役。消防庁救急救助室長を経て、1986年より岐阜県博覧会推進局長兼博覧会推進本部副本部長として「岐阜中央未来博覧会」を成功に導く。93年9月岐阜県副知事を経て96年1月より消防庁次長を務め、97年7月現職に就任。「第10回さくらサミット in 北区」、「第1回全国雑誌町村サミット」のコーディネーターも務め好評を得る。



参加自治体一覧／参加自治体地図

1. 北海道静内町助役 野表治夫
2. 秋田県角館町町長 高橋雄七
3. 茨城県日立市助役 吉成保壽
4. 群馬県鬼石町町長 関口茂樹
5. 埼玉県幸手市市長 増田 実
6. 東京都北区区長 北本正雄
7. 新潟県上越市助役 藤原満喜子
8. 新潟県加治川村村長 秦野喜平
9. 長野県高遠町町長 北原三平
10. 岐阜県根尾村村長 道下多喜雄
11. 奈良県吉野町町長 福井良盟
12. 島根県木次町町長 田中豊繁
13. 長崎県大村市助役 島 信行
14. 熊本県水上村助役 上原吉朗
15. 宮崎県北郷町町長 植野章一



北海道静内町



■市町村の概要

雄大な日高山脈と太平洋に囲まれた競走馬のふるさと日高地方の中核都市。農林漁業の他各種の産業が発達した人口23,500人、9,900世帯の緑豊かな町。

■桜の概要

直線7km「日本一の桜並木」として知られる二十間道路桜並木。道路幅が二十間(36m)あることから二十間道路と呼ばれ親しまれるようになったこの道の誕生は明治36年のこと。当地を訪れる皇族等を迎えるために、幅二十間・長さ2里(8km)という雄大な行啓道路が造成され、桜の植栽は大正5年から7年にかけて3年の歳月を費やして当時の御料牧場職員が近隣の山々から移植し行われた。風雪に耐え、幾多の存亡の危機を乗り越え、咲き続ける桜は、ほとんどがエゾヤマザクラである。

■環境・緑化対策

静内町の二十間道路桜並木は、昨年の桜まつり開催期間中には28万人を越える観光客で賑わうようになったが、反面、交通渋滞、イベント広場・駐車場の確保、地域住民との理解と協力等の非常に大きな課題も有している。

そのようななか、桜並木の約半分の農林水産省用地については、最近、まつり開催のみならず、桜並木の維持管理についても協力を得られやすい状況となっていることは大きな前進といえる。

桜並木の保存保護に関しては、今年度農林水産省用地側の桜の調査を計画しており、今後は「桜守(さくらもり)」等の専門員を配置しての、調査・研究・維持管理体制を検討している。二十間道路周辺並びに観光地については、草刈りや清掃事務を徹底し景観と環境保護に努めている。また、公害のないまちづくりとごみの減量化・資源リサイクル等により町全体の環境保護を推進している。緑化推進については、街路・河川・公園等の緑化推進を計画している。

秋田県角館町



■市町村の概要

秋田県の中央内陸部に位置し、人口15,416人、4,834世帯、清流玉川と桧木内川の合流域に沿って開けた町。元和6年の町並みが現存し国の伝統的建造物群保存地区に選定され武家屋敷と共に独特の景観を呈している。

■桜の概要

毎年春、武家屋敷地内に400本余りのシダレザクラが咲き誇る。一方、町の中央を流れる桧木内川堤に2kmの桜並木がある。昭和6年、時の政府は経済不況と凶作にあえぐ東北地方救済のため、東北振興事業をおこした。角館町はこれを桧木内川左岸堤防の築堤及び護岸工事にあて、7年起工、翌8年完成、この年今上天皇陛下がご誕生され、翌9年に600本を記念植樹した。その後、桜は見事に生長し、367本の桜を含めたこの景観が、わが国の優れた国土美として認められ、国名勝として指定された。

■環境・緑化対策

昭和47年第23回全県植樹祭で記念植樹を行い1haに480本、また翌48年全町植樹祭で、0.63haに200本のソメイヨシノを植栽した。若木のうちは花が沢山ついて山一面が桜でいっぱいになった。しかし26年経過した現在、密植でお互いが競い合い枝の張らない直幹の高い桜となり、枝端にテングス病枝がついてしまい、機械力を使わず、町民から指摘はされるものの、管理に苦慮している状態である。

やはり教訓として、山の斜面に桜を植栽するときは苗木のときは淋しいかもしれませんが樹間を十分にとって、しかも病気に強い樹種を植栽しなければ本当の意味での桜を愛でることにはならないことが分かった。緑化でも本数を争うより本当にその樹木の生育条件に合わせなければならない、適地適木をもう一度考えてみましょう。

茨城県日立市



■市町村の概要

水戸藩主徳川光圀が、「日の立ち昇るところ領内一」と讃えた古事から「日立」の地名となった。市民運動が盛んで、現在「創造とふれあいの都市・日立」を目指し生活圏の拠点性を高める事業の展開を進めている。人口195,659人、世帯数72,810のまち。

■桜の概要

大正初め日立鉱山が煙害対策のため、オオシマザクラの苗を大量生産(15万本)し、山林に植えることを奨励。その後、鉱山社宅にソメイヨシノを植栽し、一大花見の名所を造成した功績を讃え、日立製作所役員が「桜塚」を贈るという事業が行われ、美徳として語り継がれ、現在でも保存されている。行政も昭和20年代後半「平和通り」にソメイヨシノを植林し、平成2年には(財)日本さくらの会の「さくら名所100選」に選定された。その位、山、学校、工場、社宅、神社仏閣など市内一円で桜を目にすることができ、これらは身近なさくらの名所で親しまれている。

■環境・緑化対策

日立市では「創造とふれあいの都市・日立」を目指し、「人間環境」をキーワードの一つに、本市の特色である快適な生活・自然環境を活かした人と自然が共生するまちづくりを進めている。

日立のまちづくりの特色として「活発な市民活動と企業、行政の連携」があげられる。環境、緑化問題への関心も高く、ゴミの減量化、再資源化、河川清掃、地域の美化・緑化に市民が積極的に取り組んでいる。桜についても、ボランティア団体が中心となり、保護育成(テングス病に罹患した枝の剪定、施肥等)、苗木の育成、実態調査、樹種の調査・検討等を進めている。

日立市は平成3年、山火事によって大規模な被害を受けた。失った自然を取り戻し、後世に豊かな自然を伝えていくために、桜をはじめ植生を活かした樹木の植栽、育成に取り組んでいる。

群馬県鬼石町



■市町村の概要

群馬県の西南部に位置しており、人口7,700人、2,400世帯、気候は温暖で、美しい山々や清らかな流れの自然に恵まれる町。

特産品には全国一を誇る冬桜の名所三波川で栽培されるりんご等がある。

■桜の概要

明治41年、国から払下げを受けた山林に三波川の村長が、日露戦争の戦勝を記念して桜の苗木1,000本を村民の協力を得て植栽。この中に冬桜の苗が混じっていたと思われ、一部が3~4年後の冬に開花。年を経るに従い桜樹中の約3割が毎年同期に開花、美観を呈するようになった。昭和12年には、名勝天然記念物「三波川(桜)」として国の文化財指定を受けている。昭和48年、山林火災により冬桜の大部分を焼失したが、住民の協力により復興。現在の桜山公園は、平成2年度に完成した「県立桜山森林公園」を含め、45haの森林公園で、年間20万人以上の観光客を迎える観光拠点である。7,000本の冬桜は、春と冬の二度美しい花を咲かせる幻想的な桜で、殊に冬には周辺の紅葉と見事なコントラストを描く。

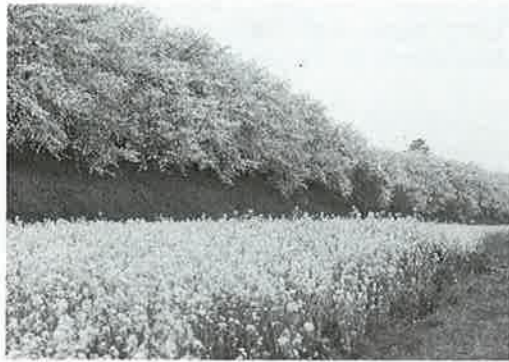
■環境・緑化対策

当町の環境に対する取り組みは、冬桜を育む三波川地域を貫流する清流「三波川」の保全活動をはじめとして、住民主導で行われている。

町では、町民による環境保全活動や各家庭の合併処理浄化槽設置に対して助成するとともに、「ふるさとの清流保全事業」や「環境セミナーの開催」などにより、町民の環境意識の醸成につとめている。

また現在、群馬県が当町に建設するとして検討を進めている木材コンビナート構想の具体化に合わせ、町では、森林の適正な保育や複層林・混合林化あるいは樹種転換などの計画もすすめ、水源地として水源涵養機能を担える森林の育成を図ることが必要となっている。

埼玉県幸手市



■市町村の概要

関東平野のほぼ中央、埼玉県の北東部に位置し、北は茨城県、西は、千葉県に接している。平成 8 年度に市制施行 10 周年を迎えた人口約 58,000 人、18,000 世帯のまち。

■桜の概要

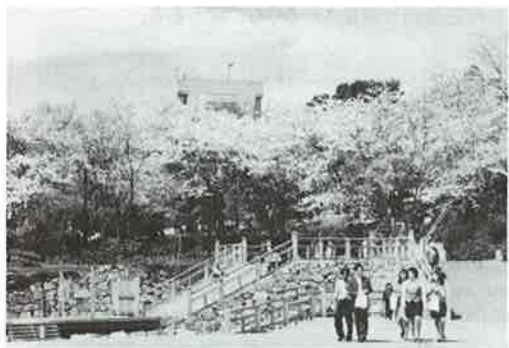
市内北部の権現堂堤が桜の名所として知られている。堤は約 400 年前に築かれ、江戸期を通して江戸を水害より守った。大正 9 年に約 4 里に渡り桜が植栽されたが、戦中から戦後にかけて伐採されてしまう。その後、昭和 24 年に地元住民等により桜の植栽が進められ、現在約 1 kmに渡り約 1000 本の桜が続き、例年大勢の花見客で賑わっている。

権現堂堤の桜は、トンネル状に満開になった桜と、周辺に植えられた菜の花とのコントラストが見どころである。

■環境・緑化対策

幸手市では、「さくらのまち 幸手」をスローガンに掲げ、桜をとおして有名なまち、誇れるまちづくりを目指している。その施策のひとつとして「さくら十万人運動」を展開している。この運動のひとつとして「保存樹木制度」を実施している。この制度は、一定の基準以上の桜(古木)を所有する方に奨励金を交付し、桜の育成・保護を目的に実施している。次に環境教育として「桜育成指定校制度」があり、この制度は、市内小中学校から毎年 1 校を指定し、桜を学年ごとに植栽し、子供達が育成するものである。育成や観察をとおして、環境及び郷土に対する関心を深めることを目的に実施している。また、婚姻及び出生届を提出された方に対し、記念として鉢植桜を配布する「鉢植桜配布事業」を実施。多くの世帯に桜に親しんでいただくとともに緑を増やすことも目的としている。桜植栽事業にも力を入れ、市内に植栽したヒマラヤ桜は、二酸化窒素の吸収にも優れ、桜もまた、人にやさしい環境をつくる力となっている。

東京都北区



■市町村の概要

東京の北の玄関口に位置し、昨年「第 10 回さくらサミット in 北区」が開催され、全国に桜文化が発信された人口約 33 万人のまち。桜の名所地「飛鳥山公園」に昨年全国初の公・民営の 3 つの博物館が同時に開館するほか、東京発の防災センターや古河庭園、桜の名所の岩淵水門などを有する。

■桜の概要

東京の桜の名所の一つである飛鳥山公園の桜は、徳川八代将軍吉宗の時代に植栽され絶好の行楽地として桜の名所地となり、現在も多くの花見客が訪れる。戦後数度の大規模改修が行われたが、現在では飛鳥舞台や井桁噴水など桜と水と自然石の調和による趣豊かな歴史公園として評価されている。現在、荒川赤羽緑地の堤防に桜を植栽し、桜のプロムナードとして整備するほか昨年治水資料館も開設され、桜をシンボルにしたまちづくりが展開されている。

■環境・緑化対策

1. 都市建築物緑化促進助成事業
北区では、都市建築物緑化促進事業を推進し屋上やベランダを緑化する場合に助成金を交付している。
2. 都市建築物緑化促進助成事業
本事業は、みどりの基金によって、区民が個人で行う緑化事業に対し、助成するものである。今後も、ボランティアの方々や地域の方々話し合い、地域の中で桜が居づらくならないよう努めていきたい。

新潟県上越市



■市町村の概要

上越市は、奈良時代以来、越後国の政治・経済・文化の中心として栄え、いたるところに歴史遺産が残されている。とりわけ春日山城跡・福島城跡・高田城跡が知られている。

現在、人口 134,679 人、44,729 世帯であり、港湾整備、火力発電所の建設、上信越自動車道、北陸新幹線など数多くの大型プロジェクトが進行し、対岸諸国と三大都市圏のゲートウェイとして発展している。

■桜の概要

高田公園の桜は、ソメイヨシノを中心として約 3,400 本植えられており、お堀の水面に映える景観は、三大夜桜の一つと語り継がれてきた。歴史を遡れば、この桜は、陸軍第 13 師団の入場を祝い、在郷軍人団の呼び掛けにより寄付が集まり、明治 42 年 3 月に 2,200 本の桜を植樹したのが始まりである。その後、多くの先人たちが補植、管理の努力を続けてきたことにより、雄大な景観を残している。

昭和 50 年には、園内に桜見本園として変化に富んだ品種を植樹し、現在、10 数種の桜が、訪れた人々の目を楽しませている。昭和 55 年 3 月に市の木として「桜」を制定した。

■環境・緑化対策

●環境対策に対する考え

上越市では、自ら国際的な環境マネジメントシステムである ISO14001 の認証を取得し、率先垂範により市民・事業者に対する普及・啓蒙を進めている。

●緑化対策への取組状況

ISO14001 の認証を取得し、環境にやさしい事務事業の推進に努めている。
・記念樹の贈呈…「花と緑のまちづくり協議会」では、各町内会での植樹や新築家庭への記念樹(桜とツバキ)の贈呈を行っている。
・一万本の桜…高田公園の桜 3,400 本をはじめ、公園一帯を一万本の桜で埋めつくし、上越市を桜の都とする計画に取り組んでいる。
平成 10 年度で 8,809 本が植樹されている。

新潟県加治川村



■市町村の概要

北緯 38 度線が通る村「加治川」は、北蒲原平野のほぼ中央に位置する人口 7,665 人、1,833 世帯の純農村である。豊かな自然に恵まれ、良質なコシヒカリを主体にした米及びしいたけ、花等の産地である。

■桜の概要

日本地図上で日本一小さい山脈である櫛形山脈の中央にある標高 399.5m の大峰山と大峰山北方大沢の谷を隔てた国有林の尾根を中心に桜樹林がある。この椽平桜樹林には、オオヤマザクラ・オクチョウジザクラ等約 40 種、1,000 本の桜があるといわれている。長い年月を経て自然に交配されたヤマザクラの変種は、花の色やつぼみの大小、葉のつき方等、他に類がないことから昭和 9 年 1 月 22 日に国の天然記念物に指定された。また、建設省の「桜堤モデル事業」として「長堤十里の桜」と全国にその名をうたわれた加治川に名勝の桜の復元を目指し、加治川村を含む 4 市町村で、全長 58.6 km、総本数約 6,000 本のソメイヨシノの植栽が進められている。また植栽された桜の里親制度を設け、桜の情報等提供している。

■環境・緑化対策

大正天皇の即位と加治川分水路工事竣工を記念して、大正 3 年に加治川堤 28 kmに桜(染井吉野)を 5000 本植栽した。しかし、昭和 41、42 年の連続の大水害での復旧による、河川改修のため大半の桜木は伐採された。その後、昭和 9 年国の天然記念物に指定された大峰山の椽平桜樹林の手入れとして、桜の木の周りの草刈り、てんぐ巢病のついた枝や形状の悪い枝切り等を、また、秋には天然記念物の大峰山椽平桜樹林の手入れとして、桜の木の周りの刈り払い、蕨蔓などのからまりを切る等の作業を実施している。また、その会の中で「桜盆栽の会」をつくり、展示即売会も年間数回各地で参加している。その他、年度末にはその年度に結婚したカップルに桜の苗木等を贈呈している。

長野県高遠町



■市町村の概要

高遠町は長野県の南部の 7,500 人、世帯数 2,400 世帯の山裾の城下町。特産品は歴史のある高遠饅頭、高遠焼、木材の彫刻製品が主なものである。

■桜の概要

高遠は鎌倉時代の高遠氏に始まり江戸時代の内藤氏まで城が形成され、南信濃の中心地として栄えてきた。戦国時代には武田信玄が本格的な城塞を築き、江戸時代は会津藩始祖の保科氏を始めとした高遠藩三万三千石が置かれ、城下町が発達した。廃藩置県により高遠城は取り壊され、あたりは一時荒廃したが、明治 8 年有志が近くにあった桜の植樹をして高遠城址公園としての整備が始まり現在に至っている。この桜はタカトオコヒガンザクラというコヒガンザクラの仲間としては大木となり花も赤みが強い特種な桜で、樹林は県の天然記念物に指定されている。

■環境・緑化対策

1) 環境対策事例

高遠町では、「人と自然にやさしく、美しく、安心して生活できる町づくり」を目指し、平成 9 年 12 月に、「高遠町いきいき環境保全条例」を制定した。この条例に基づき、環境の保全に関する各種施策を総合的かつ計画的に推進するための「高遠町環境基本計画」を策定した。

2) 緑化対策事例

荒廃林地、耕作放棄地を利用した花の丘公園整備がある。タカトオコヒガンザクラ、ヤマザクラ、八重桜など、100 種類以上の桜が約 11ha の園内に植栽され、平成 8 年度に仮オープンした。過去 3 回、植樹祭を実施し、それぞれ町民による桜の植樹が行われており、以後、草刈り等の管理も住民参加により行われている。また、桜苗木の無償配布を実施し、町内への普及と桜による緑化を図っている。

花のまちづくり事業として、花の苗代等の費用に対し 3 万円を限度に補助しており、住民参加型の緑化の定着を図っている。

岐阜県根尾村



■市町村の概要

国指定天然記念物の淡墨桜をむらづくりのキーワードとして、桜の植樹運動を進めている。清流・根尾川が中央を流れ、四方を美しい緑の山々に囲まれた人口約 2,500 人、820 世帯の自然豊かな山村。

■桜の概要

樹齢 1,500 年の淡墨桜は、第 26 第継体天皇のお手植の桜と伝えられ、樹高約 16m、幹回り 10m、枝張りは東西 27m、南北 20m と桜では日本一の巨樹と云われ、日本さくら名所 100 選にも選ばれた。過去、幾度も雪害や風害により枯死の危機に陥ったが、山桜の根継ぎによる回生手術や作家の宇野千代女史ら各界の保護活動によって、現在も盛観を保ち、昭和 55 年度から 10 年間で淡墨公園として整備され、毎年 4 月上旬には全国から 20 万人もの観光客が訪れる。

■環境対策・緑化対策

本村は、総面積 296Km²と広大であるが、そのうち 96%を山林が占めているほか、村の中央を揖斐川の源流である根尾川が流れ、水と緑の美しい村であるが、近年、釣り客や河川でのキャンプなどの観光客も多く、河川の汚染や道路沿いの空き缶のポイ捨てなどゴミ対策が大きな問題となっている。

このため、村では、豊かな自然と環境を守る条例の制定により、環境美化推進員を配置して、ゴミの不法投棄を規制するとともに、住民の清掃活動への積極的な参加を促すなど環境美化に努めているほか、平成 8 年度に下水道整備に着手し、21 世紀に向けて環境保全を最重点施策としている。

また、老人会が淡墨桜の種から苗木を育てており、住民のボランティアにより県道や林道沿いにこの苗木を植樹するなど桜公園化を進めているほか、平成 5 年度には全国から淡墨桜苗木オーナーを募集し、ダム周辺に植樹し、美しいむらづくりを推進している。

奈良県吉野町



■市町村の概要

奈良県のほぼ中央に位置し、人口 12,030 人、3,800 世帯、市街地に接して約 30 キロ平方メートルにも及ぶ国立公園がある。また町のいたる所に名所、旧跡、文化財が散在し、緑豊かな自然観光地として広く知られている。

■桜の概要

吉野山は古来から桜の名勝地としてつとに知られているが、今から 1,300 年前、山岳宗教「修験道」の本尊、蔵王権現のご神木となり、役行者の神秘的な伝承と修験道が盛行するにつれ、蔵王権現を祀る金峯山寺への参詣も盛んになり、ご神木の「献木」となって植え続けられてきた。

吉野山の桜は、全山で約 30,000 本、そのほとんどがシロヤマザクラである。桜は麓の下千本から中・上・奥千本とおおよそ 1 ヶ月かけて咲き競っており、その景色は見ごたえがある。

■環境・緑化対策

吉野山の環境は、元々桜が育つのに好条件とはいえない。比較的雨が多く、湿度も高く霧の深い日が多い地域で、また、植栽地は北北東斜面で日当たりが悪く、土は水分の多い状態である。ここ 6~7 年前に吉野山の桜は往年に比べ、花の量、その蕾も少なく目に見えて衰退してきた。そこで、県・町・桜を主に管理している(財)吉野山保勝会が中心になって「吉野山桜活性化対策委員会」が設けられ桜樹林の調査を行い、その方策を報告書にまとめ、処方箋に基づいて桜の再生を図ってきた。環境の変化からの対策としては、桜とモミジ類が混植されている部分がありモミジ類が桜を圧迫しているため植生を分離した。また、桜の幹に地衣類の一種であるウノノキゴケが多数付着している。ウノノキゴケが地衣酸を出すことにより桜を枯死させる原因となっていることから、樹皮を痛めない程度に高圧の水をかけ除去しているが地衣類の着生は大気汚染の少ない地域で多いことから、吉野山も空気のきれいな所であることを物語っている。この環境を維持していくよう努めている。

島根県木次町



■市町村の概要

島根県出雲部の中央に位置し、古くから当地方の中心として栄え、現在は木次拠点工業団地を中心に企業誘致が進んでいる。また「健康の町」を宣言し「心、体、社会」の健康づくりを進めている。人口 10,400 人、世帯数 3000 の町。

■桜の概要

平成 2 年 3 月、「日本さくらの会」より、日本さくら名所 100 選に認定された「きすき桜並木」は、斐伊川の清流にそって約 2km にわたり桜トンネルとして、中国随一の名所としてその名をはせている。この斐伊川堤の桜は、明治の終わり頃から町民の手によって植えはじめ、本格的には昭和の初めに土手の両側に植えられ、多年町民が愛情をそそぎ、今を盛りとして町のシンボルとなっている。

現在、1500 本の桜が斐伊川堤、木次公園などにあり、シーズンにはポンボリ点灯ライトアップなどで夜桜が楽しめ、また、期間中(3月下旬~4月中旬)は数多くのイベントや特産品テント村などが開設される。

■環境・緑化対策

昭和 48 年に「健康の町木次さくらの会」が組織され、町が行う日本一の桜の町事業を支援し、町の花木である「桜」と「つつじ」を愛する心を広く町民へ呼びかけたその保育・育成にあたっています。会員数は現在 180 名程度であり、町民の皆さんの各層から成り立っている組織です。特に、平成 2 年に本町の「斐伊川(ひいかわ)堤防桜並木」が日本の桜名所 100 選に選定されたことを契機に町として桜守を委嘱し、この「健康の町木次さくらの会」の事業として町内にある「桜」と「つつじ」の本格的な保育をはじめました。また、笹部桜の増殖、育苗事業についても手掛けています。昨年 4 月には木次の桜の歴史を後生に語り継ごうという趣旨から、町民有志による創作劇「ひと花の吹雪」が上演され改めて町の財産である桜の大切さを町内外の方へ、啓発することができました。この演劇は(財)日本さくらの会が現在進めている「桜 100 万本植樹・愛護運動」の趣旨と合致することから、同会の全面的な協力をいただき、東京での公演も実現し全国へ向けての PR も出来たと感じています。

長崎県大村市



■市町村の概要

長崎県の中央部に位置し、東西 12km、南北 16kmと南北に長く、総面積 126.29 平方kmを有する人口 83,500 人、28,800 世帯の市。

■桜の概要

長崎県随一の桜の名所として知られる大村公園は、大村藩主の居城であった玖島城跡で、約 21ha の広さを誇り、近年桜を中心とした公園に整備され、桜のほかツツジ、花しょうぶ、アジサイと花の期間が長く続き、3 月 25 日から 6 月 20 日まで花まつりとして賑わう。

桜の数は、ソメイヨシノ 1,500 本、オオムラザクラ 300 本、八重桜 200 本と合わせて約 2,000 本ある。

中でも、国指定の天然記念物であるオオムラザクラは、八重桜の二段咲きで花弁の総数が 60~200 枚もある優雅な花で、里桜中の名花といわれ、花の咲く 4 月上旬は多くの見物客が訪れる。

■環境・緑化対策

大村市では、昭和 63 年から「ゴールデンイーグルビジョン」として、市内の中心を流れる大上戸川の河川改修(鯉の泳ぐ川づくり)事業と合わせ、延長 1.5 km、総工費 4 億円で、桜の並木整備事業を行い、市民の憩いの場として整備を行った。

現在、地元の振興会で先行して行われている郡川河川工事「桜の堤整備事業」を計画中である。

また、平成 7 年より、大村市として、桜の苗木から育成を行うべく、専門員を市職員として雇用し、15,000 本の目標で市内の企業や町内会及び個人への無料配布を行っている。

大村市の人口増加に伴い、周辺部の宅地開発は山林部に及ぶなか、オフィスパーク整備事業、琴平スカイパーク整備事業、日岳公園整備事業、県立公園内の緑化整備事業、萱瀬ダム周辺環境整備事業等公園整備事業では、花木(桜を中心として)の植栽を積極的に行っている。

熊本県水上村



■市町村の概要

熊本県東南部、宮崎県との県境に位置し、総面積 192.11km²のうち 92%が森林に囲まれた人口約 2,900 人、950 世帯の村。日本三大急流のひとつ、「球磨川」の源がある自然豊かな村。

■桜の概要

昭和 35 年、村の中央部に球磨川総合開発の一環として洪水調節を主目的とした多目的ダム「市房ダム」が完成し、修景事業の一環として昭和 37 年に付け替え道路となったダム湖周辺 15 kmに一万本の桜が植栽された。その後、昭和 59 年に始まった「くまもと日本一づくり運動」のなかで、当時の県知事であった細川護熙氏の提唱により、市房ダム湖周辺で育まれた一万本の桜を核にしたむらづくりということで「日本一の桜の里づくり」が始まった。現在まで、ダム湖完成時に植栽されたソメイヨシノを主に、村全域で約二万五千本の桜が植栽された。

■環境・緑化対策

村のシンボリック存在ともいえる「市房ダム湖の一万本桜」は、住民総参加の桜の下草刈り、空き缶ゴミ拾い等、住民 1 人ひとりの手で育てられている。

平成 9 年度より樹木医の指導を仰ぎ、集中的なテングス病の枝の切除、植栽間隔過密箇所の間伐、また、EM 肥料による土壌改良等、年間約一千万円の経費を費やし、桜の生育環境づくりに取り組んできている。

桜の植栽箇所が道路とダム湖の間の急傾斜地であるため、肥料分がダム湖に流失し土壌が痩せている。土壌改良については、開始後 2 年目ということもあり、まだ目に見える効果は現れていないのが現状であるが、今後大いに期待するところである。

ダム湖周辺の桜は片側をダム湖面に枝を伸ばしているため、テングス病の全ての病枝を切除することができない状態であるが、平成 10 年度より高性能の高所作業車の導入、作業員の増員を行い、95%程度の病枝を切除することに成功した。

宮崎県北郷町



■市町村の概要

さくらのまち日本一を目指し、昭和 56 年から桜の植栽運動を展開している。温暖な気候と人情豊かな、人口約 5,600 人、2,000 世帯の緑と清流と温泉のまち。

■桜の概要

370 年の歴史を誇る飯肥杉のまちで、この豊かな杉林の緑の中に、色鮮やかに春の訪れを知らせてくれる山桜が数多く生息しているところである。植栽は、自治公民館や各種民主団体、誘致企業等の協力のもと、公共施設周辺や沿道など約 18,000 本程度の植栽を完了している。また、当町は宮崎日南海岸リゾート開発の保護・歴史リゾートゾーンに位置づけられ、静かな高原にリゾートホテル、ゴルフ場が整備されているほか、周辺には緑豊かな自然を生かしたレクリエーション施設や公園を数多く有している。特に高原にはリゾート施設の整備とともに、桜のまちづくりの拠点として桜公園に 10,000 本の桜が植栽され、今後も整備が計画されている。町内の桜愛好家が開発した「日南寒咲一号」は 12 月頃には開花する早咲きの桜がある。

■環境・緑化対策

本町は次の 5 つの環境緑化事業を進めています。

1. 緑の募金事業(グリーンプラン事業) 緑化木配布事業~各地区公民館に緑化樹木の希望調査を実施し、公共施設・道路を中心として 15 集落に 1,076 本を配布し、環境緑化を図った。(苗木の調達/緑の募金を財源とした購入苗 805 本、県緑化木養成圃場より 271 本)
2. 小鳥にやさしい森づくり事業 ①苗木配布会の開催…平成 10.11 開催の産業祭において苗木配布会を開催配布苗木 500 本 ②植樹活動…森林公園・公共施設等に実のなる木を中心とした植栽活動を実施し人と小鳥が共生する森づくりの展開(工芸の里…300 本、花立高原…630 本、黒荷田水源の森…630 本 計 1,560 本)
3. 宝くじ環境緑化事業 花立高原周辺の森林レクリエーションエリアに広葉樹を植栽し、環境緑化と多様な森林づくりを進め自然探索・野外学習に活用する。(植栽本数 130 本 事業費 900,000 円 県 2/3)
4. えびね蘭の森づくり事業 町花えびね蘭の保存と自然保護環境緑化、普及としてえびね蘭 5,000 本を植栽し、併せて園内に休憩所・遊歩道を設置する。(えびね蘭 5,000 本 事業費 1,200,000 円 県 2/3 休憩所 3カ所 電気柵 1 セット 案内板 1 式)
5. さくらの植栽運動の実施 昭和 56 年から町民運動として実施。約 18,000 本のさくらを花立高原を中心に公民館・事業所などに植栽

第11回さくらサミット in 北郷

お問い合わせ／宮崎県南那珂郡北郷町郷之原乙1477
北郷町企画課 0987(55)2111

